

平成23年度第1回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日時 平成23年4月27日（水）15:00～16:20

2場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長（議長）、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、オア委員
ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、ロジスキー委員、杉山委員、
渡部委員 計13名

委員以外：岩瀬理事、菅野理事、事務局職員

4議事録署名人 セドゥーキン委員、岡委員

5議事

（1）議題

A テニユア審査委員会の設置について

角山学長から、配布資料に基づき説明があり、審議が行われた。

B 会津大学戦略的研究について

セドゥーキン委員から配布資料に基づき説明があった。

このことに対し次のとおり意見があった。

○ ディザスターリカバリーと4つの研究領域の関係性について教えてください。

→ ディザスターリカバリーには最新ソフトウェアの開発が含まれています。例えば、津波の発生予測と防御モデルの開発や衛星でデータを集め、局地気候の予測の研究を行っている。これらをどう防災に役立てていくかが課題。

各方面からの要望とそれぞれのプロジェクトをどのようにすり合わせ、どのように新しいビジネスへとつなげていくかについては各プロジェクトのリーダーがもっと考えていく必要がある。

特に会津地域の経済活動とディザスターリカバリーをリンクさせ、経済活動を活性化させるかを検討する必要がある。

→ 災害時に技術をどう活用していくかが最も重要で、例えば今回のような津波被害のときに、私達の技術を活かして行方不明の方を効率的に検索するといった実際に利用できる技術にすることが最終的な目標と考えます。

○ 4つのプロジェクトがどうリカバリーとニュービジネスに関連するのかもう少し具体的に記載いただくと外部の方にとって明確になると思うので検討してほしい。

その後、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

（2）報告事項

A テニユア獲得の資格判定について

角山学長から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して質問、意見はなかった。

B 平成23年度年度計画について

菅野理事から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して質問、意見はなかった。

C 公立大学法人会津大学役員報酬規程等の一部改正について

菅野理事から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して質問、意見はなかった。

D 会津大学履修規程の一部改正について

兼本委員から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して質問、意見はなかった。

E 会津大学大学院履修規程の一部改正について

兼本委員から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して質問、意見はなかった。

F 次期中期目標・中期計画について 及び

H 平成22年度実施大学機関別認証評価報告書について

菅野理事から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対し次のとおり意見があった。

○ 志願倍率の推移を見すえた学部定員の増設については、現状では震災によりマイナス要因があるため、倍率を維持するだけでも難しいので慎重に議論してほしい。

○ 増員ではなく、増設なので、どのような方向性で学生をとりたいのかということがある。例えば国際関連の学科の新設といったことであれば議論できると思う。

○ 大学院の留学生に対する施策も次の計画に検討してほしい。

○ 改善を要する点として院の充足率が低いということがあるが、大学と大学院を統合した6年一貫のカリキュラムを作成すれば院への進学率は自動的に上昇するので、特別な事情がない学生以外は全てマスターまで進学させるというのも1つの案だと思う。

○ レベルの高い学生を多数集めるという目標を達成する為にできることとして、1つ目の提案は、学部を” English-Only Track” を創設することによって全世界から優秀な学生を選抜することが可能だと思う。

2つ目は、日本のトップ10 あるいはトップ20 の高校と協定を結び、各校から毎年優秀な学生を1人（GPA3.0以上などの基準を設けて）入学させる。このことによって優秀な学生を確保することができると同時に、20人分の一般入学の学生の定員が減るので、競争率が高くなり優秀な学生が集まるのではないかと思う。

G 平成23年度一般入試（前期日程）の合格者について

兼本委員から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して質問、意見はなかった。

(2) その他

入学試験の選抜方法について検討してほしい。

会津大学では、センター試験で評価する科目は理科だけだが、センター試験の位置づけは高校の科目をどれだけ勉強してきたかという、学力の水準を図る制度の1つとして使われている。会津大学もバランスのとれた高校時代の学力を評価するのであれば、理科だけでなくでもいいのかと思う。

また、2次試験のウェイトが極めて高いので、たとえ第一志望が会津大学の受験生であっても、センター試験で高得点をとると、センター試験が評価される他の国公立大学へ志望する可能性がある。

センター試験の科目数と2次試験とのウェイトを検討し、センター試験の結果を評価すると優秀な学生が集まると思うので検討してほしい。

平成23年度第2回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日時 平成23年6月22日（水）15:00～16:21

2場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長（議長）、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、バーラ委員
ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、ロジスキー委員、杉山委員、
新城委員 計12名

委員以外：岩瀬理事、長谷川理事、事務局職員

4議事録署名人 佐川委員、ニキシコフ委員

5議事

（1）議題

A テニユア獲得の資格判定について

岩瀬理事から、配布資料に基づき説明があり審議が行われた。

B 平成22年度業務実績報告書について

引地企画連携課長から配布資料に基づき説明があった。

このことに対し次のとおり質疑等があった。

○ 中期計画全体の評価としたとき、今年度D評価となったものについて、6年間で評価したときに良くなるものはあるのか。

→ 中期計画の最終評価については23年度終了後となるが、年度計画でD評価の項目については、恐らく中期計画でもD評価になると思われる。

一つは、県内の中学、高校の教員の資質向上のために大学院に現職教員の受け入れを検討するという項目は、これまで実績がない。大学は受入体制が整っているが、県の方で予算化ができていないため、実施の目途がたっていない。

もう一つは、外部資金の研究費のうち間接経費の一部を若手教員等の研究費に活用するという項目であるが、これは制度上認められていないもので、中期計画の設定時に事実誤認があったものと思われる。

○ 制度上達成が不可能で計画自体に問題があったものは、今後計画を見直せばいいが、D評価でなくてもC評価で大学自体の努力不足によるものはあるのか。

→ 情報処理技術者試験の合格者数、英語能力試験の受験者数、TOEICの受験者数を目標にしているが、受験者数ではなく、点数を目標にすべきで、数値もここ6年間で改善が図られていないので、ここは反省すべきところだと思う。

○ 数値を見ると目標に到達していないことが明らかで、仕組みを変えなければならないTOEICについては今後受験者数が増えてくるので、今度は点数を上げなければいけないが、点数を見ると非常に低い。カリキュラムを変えないといけないので語学研究センターにも考えてほしい。

情報処理技術者試験については昨年新たに学習システムを導入したので、4年間の早い時期から頻繁に取り組んでほしい。

数値目標があると改善しやすいので、目標を達成するため多くの先生からアイデアを集めて、仕組みを変えていきたい。

○「中学、高校の教員を大学院へ受け入れて長期研修を行う」ということについて、高校生や高校教員は刺激が必要なので、この項目は削らないで実現に向けて検討して欲しい。

○大学教員が高校への出前講座を行うことについて、複数の課で企画されているが、調整がされているのか、それともバラバラにやっているのか。

○年度初めに高校へどんな先生にどんな話をして欲しいかという希望は聞いている。

○出前講座を計画したときは全体像がどうなっているか教員に説明することが必要である。

その後挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

(2) 報告事項

A 平成24年度入学者選抜要項について

兼本委員から、配布資料に基づき説明があった。

このことに対して以下の質疑等があった。

○ここ数年、県立の進学高校から来ていない。これは進学校の生徒はセンター試験で理科1科目を受ける生徒は少なく、5教科7科目を受ける生徒が多く、センター試験である程度点数をとるとこれを評価する大学へ進学する。

センター試験をもっと評価しなければ今後いい学生をとることが難しくなる。

センター試験と2次試験の比率をイーブン程度にする必要があると思う。

○以前は進学校から来ていたので、本当にセンター試験が原因かどうかは分析が必要だと思う。

○センター試験で理科1科目を受ける生徒は少なく、大学進学を希望する生徒は数学、英語を中心に勉強していると思う。

例えば、理科と数学の選択性にするの間口は広がるのかと思う。

○センター試験の評価を大きくすると2次試験の活気がなくなる傾向があるので分析しなければいけないと思う。

思い切ってセンター試験の配点を半分にするというのはあると思う。

○センター試験科目については毎年気をつけるべき問題なので、例えば受験専門の学校と定期的に意見交換を行って分析し、今後どうするかを検討していきたい。

(3) その他

企画連携課より、新しく作成した会津大学を紹介するビデオクリップの紹介があった。

平成23年度第3回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1日 時 平成23年7月27日(水) 15:00~15:40

2場 所 会津大学管理棟3階 大会議室

3出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、バーラ委員
ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、ロジスキー委員、杉山委員

計12名

委員以外：岩瀬理事、長谷川理事、事務局職員

4議事録署名人：程委員、バーラ委員

5議事

(1) 議題

A 専任教員の選考について

配付資料に基づき、ロジスキー委員から、説明があり審議が行われた。

B 教員選考委員会の設置について(文化研究センター)

角山学長から、配付資料に基づき説明があり審議が行われた。

C 文化研究センターの教授職の採用について

角山学長から、配付資料に基づき説明があった。

このことに対し次のとおり質疑等があった。

○ 文化研究センターでは何名が教授職になれるのか。

○ 学部の講座に所属する教員は4名に1人が教授職なので、文化研究センターは8名なので2名程度と考えているが、大学全体の教授のバランスを勘案し、一時的に教授職が増えるのは構わないと考えている。

○ 文化研究センターの教員は異なる分野の研究をしており、競争が成り立たない組織なので上級准教授の方の年齢層を勘案して適切に対応すべきで、必ずしも、2名に限定する必要はないと考えている。

○ 学部の上級准教授で教授になれない方がいるのに、文化研究センターの教授を1名増員するというのは不公平感があるので、学部の若い上級准教授も広く応募できるようなことを検討してほしい。

○ 講座の枠にとらわれないで柔軟にポストが割り当てられるよう検討したい。

その後、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

本議案の承認を受け、引き続き、学長から文化研究センターの「教員選考委員会の設置」メンバーについて提案があった。

これについても挙手によって賛成多数により原案どおり承認された。

D 教育研究審議会の第2条第4号委員の選任について

角山学長から、配付資料に基づき説明があり、新たな委員の候補者の推薦を求めたところ、特になかったことから学長の案として趙教授が推薦された。

趙教授の委員就任について挙手によって、賛成多数により承認された。

平成23年度第4回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成23年9月14日(水) 15:15~17:15

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員

ニキシコフ委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、杉山委員、趙委員、平岩委員

計12名

委員以外：岩瀬理事、長谷川理事、事務局職員

4 議事録署名人：太田委員、趙委員

5 議事

議題

A 教育研究審議会の第2条第5号委員の選任について

学長から会津高校の平岩校長を選任したいという提案があり、挙手により賛否をとったところ賛成多数により、平岩校長を教育研究審議会委員に選任することとなった。

なお、平岩委員は議題B以降の議事から参加した。

B 准教授から上級准教授への学内昇任について

配付資料に基づき、角山学長から、説明があり、審議が行われた。

C テニユア獲得の資格判定について

各テニユア審査委員長から説明があり、審議が行われた。

D 会津大学名誉教授称号授与候補者について

配布資料に基づき五十崎総務予算課長から説明があり、審議が行われた。

E 会津大学大学院履修規程の一部改正について

配布資料に基づき兼本委員から説明があり、次の質疑があった。

○一部の科目名称に混乱を生じる可能性があるので見直した方がいいのではないかと思う。

○内容については正しいことを記載しているが、タイトルについては少し誤解しやすいのがあるかもしれない。できるだけ直せる範囲で直したいが、後はタイトルとシラバスを見てもらって学生に判断してもらいたい。

○大学院の全ての科目をマッピングしてこのコースは事前にこのコースをとっておくべきだとシラバスに明確に書くということも含めて学生に提示する方向で考える。これによってコースマップを俯瞰していただければ名前がわかりにくくても混乱は大きくないのではないかということも考えている。コースマップの作業作成と並行して科目の名前変更も可能な限り反映していきたい。

科目の名称の変更はあり得るが、原則は配布資料のとおりとするということを挙手による賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

報告事項

A 平成24年度編入学試験の結果について
配布資料に基づき兼本委員から説明があった。

平成23年度第5回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成23年10月26日(水) 15:00~16:05

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、バーラ委員
ニキシコフ委員、ロジスキー委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、杉山委員、
新城委員 計13名

委員以外：長谷川理事、事務局職員

4 議事録署名人：宮崎委員、ロジスキー委員

5 議事

議題

A 理事長選考会議の委員の選出について

・教育研究審議会から選出する選考会議の委員を理事長、副理事長を除く学内委員から選出することが決定された。

・投票方法については対象の教育研究審議会の委員の名前を3名連記とし、得票順位3位までを理事長選考会議の委員とし、4位を補充委員として選出することが決定された。

・投票の結果、岡委員、佐川委員、程委員の3名を理事長選考会議の委員として、兼本委員が補充委員として選出された。

また、このことについて次のとおり質疑があった。

○現理事長の任期が平成24年3月末までのことは機密事項なのか。

→3月末が任期となっていることはオフィシャルになっていることであり、手続きは規程に基づいて実施していることなので機密事項ではない。

また、今回選考会議の委員として選出された委員の方の名前についても機密事項ではない。

○角山理事長は次の期間も理事長として選出されることは可能なのか

→この場合、任期は2年となる。

報告事項

A テニユア審査委員会委員の一部変更について

配布資料に基づき角山学長から説明があった。

その他

配布資料「公立大学法人会津大学の運営状況等について」角山学長から説明があった。

平成23年度第6回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成23年11月30日（水）15：10～15：50

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長（議長）、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、バーラ委員
ニキシコフ委員、ロジスキー委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、杉山委員、
趙委員、新城委員 計14名

委員以外：長谷川理事、岩瀬理事、事務局職員

4 議事録署名人：セドゥーキン委員、兼本委員

5 議事

議題

A. 専任教員の選考について

岩瀬理事から、配布資料に基づき説明があり、審議が行われた。

その他

企画連携課より、新しく作成した会津大学を紹介するビデオクリップ「元気です。会津大学！ 2」の紹介があった。

平成23年度第7回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成23年12月14日(水) 15:05~16:50

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、バーラ委員
ニキシコフ委員、ロジスキー委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、杉山委員、
趙委員、新城委員 計14名

委員以外：長谷川理事、岩瀬理事、事務局職員

4 議事録署名人：杉山委員、ニキシコフ委員

5 議事

<議題>

A テニユア獲得の資格判定について

ロジスキー委員から、配布資料に基づき説明があり審議が行われた。

B 専任教員の選考について

選考者それぞれの選考委員長から、配付資料に基づき説明があり審議が行われた。

C 理事長候補者の推薦について

理事長候補者の推薦に先立ち、五十崎総務予算課長から理事長選考の仕組み、日程等について説明があった後、教育研究審議会から推薦する理事長候補者の選考審議に入ったところ、岡委員から角山学長を教育研究審議会として推薦したいという意見があった。議論の公平性を担保するため、角山学長が一時離席し、代わって兼本委員が議長を行い以下の審議があった。

○「延べ6年を超えて在任することはできない。」という規定は角山学長の場合はまだ4年の任期であるということを再確認したい。

→ 角山学長の平成18年度から平成19年度の最初の2年間は法人定款の附則に基づく在任期間である。理事長選考規程は平成19年度に定められ、角山学長の規程に基づく任期は平成20年度からの4年間ということになっている。

今回再任ということになれば、平成24年度からの2年間の任期となる。

○角山学長の理事長再任への意向を確認するのはいつになるのか？

→ 今回教育研究審議会の推薦を受けた事実を持って、教育研究審議会代表が理事長候補者に意向を確認し、理事長選考推薦書に意向書を添付し、推薦立候補受付期間までに理事長選考会議へ提出し手続きは進められる。

審議会への意向の報告は推薦書の提出の写が配られることで示されることになると思う。

○今回審議するのは候補者の意向に関わらず、選考会議への推薦を決定するということか。

→ はい。

○教育研究審議会で誰を推薦したかについては、いつ公開になるのか？

→本日教育研究審議会で決定した推薦者については、公開して構わない。

角山理事長の他、推薦者はなく、岡委員より角山学長を推薦する趣旨説明があった。

教育研究審議会の理事長推薦者にするかどうかを採決したところ、出席委員の賛成多数により角山学長を次期理事長の候補者として推薦することに決定した。

推薦書の作成については、兼本委員に一任され、推薦者の岡委員と相談のうえ作成することとなった。

<報告事項>

A 平成24年度推薦入試実施結果について

(兼本委員から角山学長に議長交代)

兼本委員から、配布資料に基づき説明があった。

平成23年度第8回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録

1 日時 平成24年1月25日(水) 15:00~16:07

2 場所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員、バーラ委員
ニキシコフ委員、ロジスキー委員、太田委員、宮崎委員、兼本委員、杉山委員、
趙委員 計13名 (欠席委員：平岩委員、新城委員)

委員以外：長谷川理事、岩瀬理事、事務局職員

4 議事録署名人：岡委員、佐川委員

5 議事

<議題>

A 専任教員の選考について

選考者それぞれの選考委員長から、配付資料に基づき説明があり審議が行われた。

B 第2期中期計画(案)について

中期計画の全体について引地企画連携課長から、予算資料について五十崎総務予算課長から配付資料に基づき説明があり、次のとおり質疑があった。

「会津SLF 協議会の目標の表現について」

○SLF 協議会について、「拡大し継続する。」を「継続し必要に応じて拡大する」という表現にしてはいかがか。最初から拡大ありきではなく、現状を踏まえて拡大を検討した方が良いと思う。

「民間企業、卒業生からの寄付受入の仕組みについて」

○20周年記念事業に合わせて国際交流会館などを建設するのもいいと思う。

→会津大学は卒業生が少ないので建物を建てるほどの資金は難しいと思うが、寄附を利用してソフト事業等を実施するのは可能と思われる。

「大学施設の使用料の増について」

○大学施設の有料化についてはどこの施設を対象とするのか。

→総務予算課所管で講堂、大講義室、中講義室を、また学生課所管で体育施設を貸し出している。

○使用料が増えると利用者がいなくなるのではないか。

→目標は貸出件数を増やすということで、料金を上げるという意味ではない。

○国際会議等は今まで料金がかからなかったが今後はかかるのか。

→大学主催のものは料金を徴収しない。外部への貸出の場合である。

[秋入学について]

○東京大学などで検討している秋入学について会津大学では中期計画の中で検討するのか。

→中期計画、中期目標の中に記載はない。

○「入学者受入方針及び入試制度に関する目標」に含まれていると考えている。この中で具体的に秋入学を検討しようということになれば、年次計画の中に組み込まれていくことになると思う。

○秋入学を実施することによってカリキュラムを作る対応のことも考慮し、よく検討しながら進めてほしい。

○国や全体の流れを見ながら新年度に入って検討を始めるというのが妥当だと思う。

「情報処理技術者試験の数値目標について」

○基本情報処理技術者試験以上の資格保持率を全学生の25%を目標としているが、目標としては妥当なのか。

→現在の目標は4年生までの基本情報技術者の合格率を50%としており、22年度の実績は21%、応用情報処理技術者試験以上の合格率は4.6%。目標は15%となっている。

これを、新たな中期計画では受験率を50%以上。基本情報技術者の取得率を25%とした。

○この目標は合格率か。保持者率なのか。

→新たな中期計画では受験率と保持率の2つを目標としている。受験率を50%としたうえで、保持率25%を目標としている。現在の保持率は約20%となっている。

○現在約20%なので、目標としては妥当であると考える。

その後、挙手により賛否が問われ、賛成多数により原案どおり承認された。

平成23年度第9回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録概要

1 日 時 平成24年2月22日(水) 15:00~16:45

2 場 所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員：角山学長(議長)、セドゥーキン委員、岡委員、佐川委員、程委員
ニキシコフ委員、ロジスキー委員、太田委員、宮崎委員、杉山委員、趙委員
新城委員 計12名 (欠席委員：バーラ委員、兼本委員、平岩委員)

委員以外：長谷川理事、岩瀬理事、事務局職員(総務予算課のみ)

4 議事録署名人：程委員、ロジスキー委員

5 議事

<議題>

A 会津大学名誉教授称号授与候補者について

配付資料に基づき、五十崎総務予算課長から、説明があり審議が行われた。

B 会津大学特別栄誉教授の委嘱について

配付資料に基づき、角山学長から、説明があり、審議が行われた。

C テニユア獲得の資格判定について

配付資料に基づき、各テニユアの審査委員長から、説明があり、審議が行われた。

D 教員選考委員会の設置について(UBIC)

配付資料に基づき、角山学長から、説明があった後、挙手により賛否をとったところ
全会一致により原案のとおり承認された。

報告事項

A 平成24年度一般選抜(前期日程)試験の志願状況について

配付資料に基づき、山内学生副部長から、説明があった。

B 創明寮レジデントアシスタントによる半年間の活動報告

レジデントアシスタントより、説明があった。

平成23年度第10回公立大学法人会津大学教育研究審議会議事録概要

1 日 時 平成24年3月22日(木)15:00~17:05

2 場 所 会津大学管理棟3階 大会議室

3 出席者

委員:角山学長(議長)、岡委員、程委員、ニキシコフ委員、ロジスキー委員、太田委員、宮崎委員、杉山委員、趙委員、兼本委員、バーラ委員、平岩委員 計12名
(欠席委員:セドゥーキン委員、佐川委員、新城委員)

委員以外:長谷川理事、事務局職員

4 議事録署名人:趙委員、太田委員

5 議事

<議題>

A テニユア獲得の資格判定について

配付資料に基づき、各テニユア審査委員長(1名の候補者は審査委員長代理)から、説明があり審議が行われた。

B 専任教員の選考について

配付資料に基づき、選考委員長から、説明があり審議が行われた。

C テニユア審査委員会の設置について

配付資料に基づき、角山学長から、説明があり、審議が行われた。

D 平成24年度計画(案)について

配付資料に基づき、引地企画連携課長から、説明があった後、次の質疑があった。

○各部門の研究目標については部門長に委ねられているが、コンピュータサイエンス部門の記載内容では抽象的なので、研究を反映した具体的なものにしたい。これを見た学生がコンピュータサイエンス部門に来ないのではないかという心配がある。

→コンピュータサイエンス部門は確かに全体を反映していないと思う。検討し今より具体的なものを提出してほしい。

OTA、SA指導力強化を行うための支援を行うということについて、指導能力の向上とは直接関係ないがTA、SAのアルバイト料について見直しをお願いしたい。

また、学部は前期・後期、院は4学期であるため、授業の関係上3学期は対応できるが、4学期は対応できないという大学院生がおり、後期のTAが担当できないということがあるので、併せて検討してほしい。

OTA、SAになった学生からの意見では、先生の演習課題が妥当ではない場合もあるとのこと。こういった意見をFD委員会で吸い上げることも重要。

○国際的に通じる発表を行うことのできる教育、修士論文の質の保証と記載があるが、具体的にどのようにしているのか。

→大学院生の国際会議での発表を支援する。国際会議での発表が単位になる制度をこれまで作ってきたので、これを運用する。もちろん新しい提案があれば改めて検討したい。

○提案だが、今は外部発表するのが義務にはなっていないが、必修化を検討してほしい。

何らかの外部発表を行う機会を設けるべきだと思う。

○修士の学生に学外論文を義務づけるということは、多くの大学が必須科目としているため、会津大学も視野に入れていいと思う。

○学内研究費において復興支援枠を設定するという意味を財源も含めて教えてほしい。

→通常の研究費とは別枠で大学の自主財源から復興枠を設定し県民の安心安全を支援、再生可能エネルギーの振興を支援する研究活動、また本学が国や県のプロジェクトに関連する研究活動について学内の競争的研究費として設定するもの。

○会津大学復興支援センターを設立するとあるが、テーマを提案したいという意見も聞いているので、教員の自発的な提案が受け付けられるようにしてほしい。

→学内の多様な意見を反映するため、各部門の先生と事務局で設立準備委員会を設置した。

部門に委員会の意見のフィードバック、委員を通して設立準備委員会へ意見することができると思う。

今後は委員を中心として企業とディスカッションすることも視野に入れているので活発な議論をお願いします。

○復興センター設立準備委員会について準備委員会の議事録や会議資料等を教員どうしで共有できるようにしてほしい。

→何らかの形で共有できるようにしたいと思う。

○寄付金取扱規定について、24年度・25年度情報収集、26年度課題等整理とあるが、どうしてこんなに情報収集期間があるのか教えてほしい。

→今も寄附金取扱規定があり、寄附金を受け付けるのは可能だが、他の大学のように基金を設立して多くの寄附金を募るとするのは、現状では体制整備ができていないことから他の大学の状況の情報収集をしていきたいと考えている。

これは予定なので条件が整えば前倒しで進めることもありうる。

その後挙手により賛否をとったところ、全会一致により、原案どおり承認された。

報告事項

A 平成24年度入学者選抜実施結果について

配付資料に基づき、兼本委員から、説明があった後、次のとおり会津大学のPRについて意見があった。

○地方の小さい大学は志願者を増加させるため常にPRしていかなければならない。例えば、ある先生からインターネットラジオを活用するという提案があり、担当委員にコンテンツがどのようなものがよいか検討してもらおうようお願いした。教育内容には自信があるので先生方からも会津大のPRについて提案してほしい。

○PRのことだが、パソコン甲子園を会津パソコン甲子園と変更したらどうか。認知度が上がり、会津大学の名前が広く認識されると思う。

○高校生が会津大学に入ってどれだけ成長できたのか。1年生から追跡して大学院を含めて6年間で何を勉強してきたのか。会津大学に入学することによる成長の成果をホームページに提示で

できれば学生が自分で判断でき、学生の両親にとっても会津大学は安心して入学させることができるということになると思う。

○会津大学のパンフレットは会津大学のユニークな所を訴えようとしているあまり、外国人の教員を表紙に並べているが高校生の視点からすると入学して授業についていけるのかという不安を煽っているのかもしれない。

学生に対してどのように教育しているのかということをもっと明確にし、高校生が入学してどう成長できるのかといった方向へ変えていくべきだと思う。

○第3弾のビデオクリップを作成中だが、会津大学に入学することにより未来像がこうなるという方向で作っている。

卒業生で、有名企業で活躍している方や、研究者になった方をビデオにまとめて出そうという考えを持って作っている。

○学生募集係が2人しかいない。学生の情報を定期的に集めて発信するという役割を果たすためには、企画連携課と募集係で密接に連絡をとって連携していかなければならないと思う。学生支援係ではOBへの連絡体制ができているが、アイデアはあっても連携する体制を作らないといいPRができないので、もっと本格的にやらないと志願倍率が増えない。

また、志願倍率が増えたときに偏差値のどのくらいの人が志願してくれるのかというのがある。偏差値が高い学生が志願するようセンター試験の結果をどう取り入れるかも含めて、入試制度の変更の議論もしていかなければならないと思う。

広報と入試制度を6月までに考えなければならぬので、アイデアを出してほしい。

○高校はただ大学に入学させるだけでなく、大学で何を学ぶかということも指導している。久しぶりに会津高校から会津大学への入学者が増えたが、推薦入試で会津高校から会津大学へ入学する生徒は高校へ入学した時点で会津大学へ行きたいという意思を持っていた。受験者が減ったということだが、逆に会津大学で学びたいという方が多く、志願したのではないかという印象を持った。会津大学は入学試験が他とは異なる独特の試験を実施しているので、それなりの覚悟がないと受験しないと思う。